

- 3) 森 梅代(1984):自然史における男と女の性差—霊長類のメス。生活倶楽部, 第3号。

学会発表

- 1) 小山直樹:マダガスカル, ベレンティにおけるワオキツネザルの性行動。第20回日本アフリカ学会(1983)。
- 2) 小山直樹:マダガスカルのワオキツネザルの社会行動。第30回日本生態学会(1983)。
- 3) 川村俊蔵・田中 進・泉山茂之:木曽S群の分群行動例について。第28回プリマーテス研究会(1984)。
- 4) 鈴木 晃:カリマンタン・クタイ保護区のオランウータンの社会構造。第28回プリマーテス研究会(1984)。
- 5) 小山直樹:インドネシア, グノンメル山におけるカニクイザルの社会変動。第28回プリマーテス研究会(1984)。

変異研究部門

野沢 謙・和田一雄・庄武孝義・峰沢 満

研究概要

1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野沢 謙・庄武孝義・川本 芳¹⁾

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し, 群内, 群間の変異性を定量化する。現在までにニホンザル42群, 総個体数約2,500頭の血液試料について, 33種の蛋白の構造を支配する計36遺伝子座の検索を行ってきた。このデータをもとにして, 統計的検討を加え, 繁殖単位間の毎代の移出入率, 遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い, ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。

2) *Macaca*属サルの系統的相互関係

野沢 謙・庄武孝義・川本 芳¹⁾

ニホンザルを含む*Macaca*属サル各種から採血を行い, 前項1)と同一の方法によって種内・種間の遺伝学的変異性を定量化し, それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝的距離で表現し, それに数量分類学的手法を適用して枝分れ図を描く。それに

より種間の近縁関係, 分化時間の推定等を行う作業を目下続行中である。

3) ニホンザルの先天的四肢奇形への遺伝的アプローチ

野沢 謙・峰沢 満

ニホンザルの数多くの餌付け群に多発する先天的四肢奇形が遺伝的支配を受けているか否かを明らかにすべく研究が続行されている。集団の奇形出現の家族集積性のデータから統計遺伝学的手法を用いて遺伝率の推定を行う他, 細胞遺伝学的手法を用いて奇形出現と染色体異常との関連の有無を明らかにする作業を行っている。交配実験は淡路島野猿公園の協力を得て現地で続けている他, 日本モンキーセンターとの共同研究として宮島から入れた奇形ザルを用いて本研究所においても続行している。

4) 家畜化現象と家畜系統の研究

野沢 謙・庄武孝義

在来諸家畜とそれらの野生原種の遺伝的野外調査によって, 家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と、個々の家畜内で地域集団間の遺伝的分化の程度, 系統的相互関係の解明を行いつつある。

5) ヒヒ類の種分化に関する遺伝学的研究

庄武孝義・野沢 謙

1978年度の調査により入手した材料を用いてエチオピア中央高原に生息するゲラダヒヒの集団動態を遺伝学的に分析し, さらに, ドリル, マンドリルの資料を加え, ヒヒ類の遺伝的分化を定量化し, 論文化しつつある。

6) ニホンザルの細胞遺伝学的研究

峰沢 満

ニホンザルの血液を培養, 染色体標本を作成する。これに各種のバンド染色を適用して標準核型を作成した。これに基づきニホンザルの各地の集団の染色体の変異性を把握しようとしている。

7) 新世界ザルの遺伝学的研究

峰沢 満

リスザル, ヨザル, フサオマキザル, ダヌキ・ティティ, クロホエザル, ムネアカタマリンの6種について遺伝的変異性(染色体変異および電気泳動法によって検索しうる遺伝的変異について)を定量化すべく作業を続けている。

8) 志賀C群の秋期の食物利用調査

和田一雄

数年間継続中の調査であり, Seed trapによる

1) 学振奨励研究員

食物の生産量調査を行っている。

9) ゼニガタアザラシのセンサスの入網溺死個体の生物調査

和田一雄

センサスは8月と9月に実施した。死亡個体についての胃内容物、内部生殖器組織検索、等を行った。

総 説

- 1) 野沢 謙(1983):日本の家畜とその系統。
「日本文化の原像を求めて*日本農耕文化の源流」(佐々木高明編) pp. 213~242. 日本放送出版協会。

論 文

- 1) Minezawa, M and Valdivia B., C.J. (1984): Cytogenetic Study of the Bolivian Titi and Revision of its Cytotaxonomic State. Kyoto University Overseas Research Reports of New World Monkeys IV: 39-45.
- 2) Minezawa, M and Valdivia B., C.J. (1984): Cytogenetic Study of the Bolivian Monkeys: 1 Preliminary Report on Karyotypes of *Cebus apella*, *Saimiri sciureus*, *Aotus azarae* and *Saguinus labiatus*. Kyoto University Overseas Research Reports of New World Monkeys IV: 53-67.
- 3) Wada, K. (1983): Long-term Changes in the Winter Home Ranges of Japanese Monkeys in the Shiga Hights. Primates 24(3): 303-317.

研究報告・その他

- 1) 川本 芳(1983): 遺伝的変異から見たマカク属の分化。モンキー, 27:32-37.
- 2) ニホンザルの奇形に関する総合的研究
— 奇形の実態調査と原因究明 —
昭和56-58年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書(分担者:野沢 謙、峰沢 満)
- 3) 和田一雄, 羽山伸一, 宇野裕之, 中岡利奈, (1983): ノサップ岬の秋サケ定置漁業におけるゼニガタアザラシの被害について。鯨研

通信, 853: 53-64.

学会発表

- 1) 川本 芳, 庄武孝義, 野沢 謙: 島嶼性マカク3種の群間分化の比較。日本遺伝学会第55回大会(1983).
- 2) 川本 芳, 寺尾忠治, 長文 昭: カニクイザル集団の遺伝分化—マレーシア, インドネシア, フィリピン集団の比較—. 第28回プリマーテス研究会(1984).
- 3) 峰沢 満: ニホンザル(*Macaca fuscata*) 幸島群のC-バンド変異。日本遺伝学会第55回大会(1983).
- 4) 峰沢 満: ボリビア産新世界ザルの遺伝的変異—予報。第28回プリマーテス研究会(1984)。

生活史研究部門

河合雅雄・杉山幸丸・大沢秀行・森 明雄・丸橋珠樹¹⁾

研究概要

- 1) 西アフリカ熱帯多雨林および乾燥サバンナの狭鼻猿類の社会生態学的研究

河合雅雄・大沢秀行・森 明雄

西アフリカ・カメルーン国の南部熱帯多雨林において1979年より地上性のマンドリルの調査が採食生態学的観点を中心に継続中であり、1982年からは同所に生息する樹上性の7種の霊長類についても森林適応の観点から調査が行われている。さらに1983年からは同国北部の乾燥サバンナにおいてパタスザルおよびベルベットザルの調査も、草原適応の観点から開始された。これらの相互比較によって同一亜科に属する各種の異なる環境への適応様式が明らかにされつつある。

- 2) ニホンザルの個体群動態および採食生態学的研究

杉山幸丸・大沢秀行・丸橋珠樹

高崎山の餌付け個体群を対象に個体標識による継年追跡を続行中であり、詳細な人口学的パラメーターを算出し生命表を完成しつつある。一方、霊仙山では餌付け中と餌付け放棄後の個体群動態が細部に及んで比較検討され、各社会階層との関

1) 学振奨励研究員